虹ヶ丘新聞

第72号

ホームのようなまち
まちのようなホーム

発行／社会福祉法人　与謝郡福祉会
高齢者総合福祉施設　虹ヶ丘
編集責任者／石本　晃一

住　所：京都府与謝郡与謝野町字岩屋600番地3
TEL：0772－43－2011
E-Mail：nijigaoka@yofuku.or.jp
URL：http://yofuku.or.jp/nijigaoka/

『令和3年を迎えて』

新型コロナウイルス感染症により、これまでの生活様式が一変した令和２年が終わりましたが、近隣地域の感染者数の増加や、再度の緊急事態宣言の発出など、未だ感染の終息には程遠い状況にあります。ご利用者ならびにご家族の皆さまには、ご不便をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

昨年より新型コロナウイルス対策として、マスクの着用と手洗いや消毒の徹底はもとより、飛沫感染防止のアクリルパネルの設置、空気清浄機等の活用、ユニフォームの購入といった感染予防策をはじめ、職員が施設内にウイルスを持ち込まないよう、外食や感染増加地域への外出の自粛、日々の検温による体調管理の徹底を行い、幸いにして当施設での発症者はありません。

しかしながら、ひとたび高齢者施設で感染が起きますと報道等でご存知の通り、大変厳しい対応を迫られることが予想されます。ご利用者の皆さまの安心・安全な生活を守るべく、今後も感染予防ならびに対策を行ってまいります。

また、ご面会の制限によって、ご入居者・ご家族の皆さまに大変なご不便やご心配をおかけしておりますが、ＬＩＮＥやＳｋｙｐｅといったＷＥＢでのご面会を準備しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さいますようお願いいたします。

高齢者総合福祉施設　虹ヶ丘
施設長　石本　晃一

『太陽の恵みのみかん』

何年か前、東二番組の花壇にみかんの木を植えました。「みかんは何年で実がなるんかなぁ？」「食べられるようになるんかなぁ？」と月日が流れ、昨年秋に職員が花壇の手入れをしていると、細い１本の枝にみかんが20個程実を付けており、重さに耐えきれなかったのか、枝が垂れ下がっていました。

少し黄色くなっていましたが、もう少し色づいて欲しかったので、このままではせっかくのみかんが食べられなくなると思い、急いで枝を棒で支え、均等に太陽が当たるようにしました。

それから、みかんの観察が始まり、１ヶ月ほど経つと、全てのみかんが綺麗な黄色に色づき収穫の時期を迎えました。黄色く色づいたみかんを収穫し、初採りのみかんをご入居者と一緒に食べました。皮は薄く実も甘くて、食べられたご入居者も「見た目より甘いね」と仰っておられました。思っていた以上に美味しいみかんができて、今年もみかんの収穫を今から楽しみにしています。

（東二番組）

西三番組「お正月飾り」

虹ヶ丘のフェースブック、インスタグラムにも掲載しましたが、今年は丑年という事で、牛の絵馬風のお正月飾りを作りました。

デイサービスなどではレクリエーションでよく作られるかと思いますが、お花紙をご入居者に丸めてもらい、下絵にボンドで貼って形を作りました。お花紙を丸めるのに「これでいいんか？」「綺麗に丸めれん」「肩が凝るなあ」など、色々と話をしながら作成し、出来上がった作品を見て「上手に出来た！」と、なかなかの出来に満足しました。あと、折り紙を牛の形に折って、ご入居所と職員が思い思いに顔を書きました。色々な顔があり楽しいです。

コロナ禍で初詣にも行けず、施設内で過ごす時間が長いので、少しでも楽しく過ごしていただけるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。あと、機会があれば、フェースブックやインスタグラムもご覧ください。

（西三番組）

下のQRコードからログインできます

Instagram　Facebook

東一番組「福笑い」

例年であればご家族が次々に来所され、賑やかなお正月となりますが、コロナ禍の今年は静かなお正月でした。恒例の餅つきは中止。新年祝賀式も規模縮小となり、初詣にも行けませんでした。

皆さま寂しい想いをされている中、少しでもお正月気分を味わっていただこうと、鏡餅やお正月飾りをしたり、午後のひと時に福笑いをして楽しみました。

東一番組は普段居室で過ごされる方が多いのですが、この日は、眉、目、鼻、口の各パーツを手に持ち、大胆に「えい、やっ」と置かれる方。慎重に何度も置き直し、口が顔からはみ出す方など、ご入居者お一人おひとりの個性が出た、楽しくおもしろいお多福顔ができあがり、みんなで初笑いをしました。今年一年皆さまが健康に過ごせますように。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（東一番組）

西二番組「鬼は外！」

今年の節分は124年ぶりの「2月2日」とのこと。例年なら鬼が来てみんなで豆まきを…となるのですが、コロナ禍で行事が色々と制限され、普通に出来ていたことが出来なくなっています。そこでそんな嫌なコロナも退散してもらおうと、ご利用者と作品を作りました。

『鬼は外、福は内』という文字に、お花紙を丸めて作った玉を貼っていきました。細かい作業にも関わらず「こっちの方がいいかな？」など相談しながら素敵に仕上がったと思います。

もう一つは、段ボールに毛糸を巻いて赤鬼と黄鬼のお面を作り、何となく仕上がりが可愛くなりました。

早く元の生活に戻れるように、西二番組の皆さまと一緒に「鬼は外、福は内、コロナ退散」と言いながら豆まきを行いました。

（西二番組）

デイサービスオリジナル門松

昨年の11月から、「お正月用に何か素敵な作品が出来ないだろうか」と案を出し合い、門松を作ることになりました。「松は何を使って作ろうか」「葉牡丹は私がしてみようかな」など、ご利用者と一つひとつ一緒に考え、約1ヶ月かけて本物に負けないくらい素敵な門松が完成しました。材料には、毛糸や折り紙、布や針金、段ボールを使用しています。

中心部分にある葉牡丹は、一枚一枚布を縫いあわせ、それを重ねて作りました。松の葉っぱはカギアミに編んだ毛糸を、葉っぱに見えるようにジグザグにボンドで引っ付けて作り、何度も試行錯誤しながら仕上げておられました。門松のパーツ全てに心のこもった作品となっています。

門松の両脇には、今年の干支である牛の置物を配置し、風船に新聞紙を沢山貼ってカチカチになったものに、色紙を貼り付けて作りました。とても愛嬌のあるかわいい牛もご利用者の手作りです。完成したた作品は、在宅玄関に飾りお正月を迎えました。

コロナ禍でこれまでと同じようにはできませんが、方法を変えながら、工夫して今の状態に合わせたレクリエーションを提供し、今後も皆さまに、元気に楽しく過ごしていただけるよう取り組んでまいります。

（デイサービス）

『神宮寺のお地蔵様』

神宮寺の境内には、大きな座位のお地蔵さんがいらっしゃいます。石川区発行の『石川昭和誌』によると、嘉永2年（1849年）に経ヶ岬付近の岩石を運んで作られたお地蔵さんは、文政5年（1822年）に起こった丹後文政一揆で、一身を捨てて宮津藩領内の農民を救った、義民吉田新兵衛・吉田為治郎さんの追悼供養の為に建てられたと伝えられています。高さは6メートルを超えるお地蔵さんで、神宮寺の行き帰りに拝んでおられるご利用者も多く、いつもお地蔵さんが見守って下さっている安心感があります。

さてこの冬は雪も多く、お地蔵さんが寒そうに雪を被っておられるため、ご利用者が以前にコツコツと編んで製作された大判のモチーフ編みがあったので、お地蔵さんの肩掛けにできないかと思い立ち、裏側から登り、肩掛けをしてもらいました。ちょっと派手かな？とは思いますが、愛情がたっぷりと籠った肩掛けをされ、その後雪が積もった際も、温かそうに見え、ご利用者の皆さまも「あったかそうでええなぁ」と好評です。次は帽子も作れたら良いけどね…と、皆で相談しています。

もしもこの記事を読まれ、神宮寺のお地蔵さんの肩掛けや帽子作りにご協力いただけるようでしたら、家に余っている毛糸を分けていただいたり、毛糸でモチーフを一つ編んで下さると大変ありがたいです。また、神宮寺の外にいらっしゃるので、神宮寺への声掛けは不要ですので、いつでも見にお越し下さい。

（神宮寺）